

加茂町に町営の簡易水道が設けられたのは一九五四年(昭和二九)で、水源は里小字西上田に、配水池は里小字口薬師(通称常念寺山)にあって、一九五八年度においては、その給水区域は里・新町・船屋(南・中・西・東・中森)・美浪・二本松の約三八〇戸に給水している。将来は大野・観音寺・北・兎並・山之上に給水管を延長するとともに、瓶原地区にも簡易水道を設け、現在のものと連絡する構想をもっている。

### 三、行 政

一八八九年(明治二二)四月町村制が実施されて、相楽郡に一九の新町村が生れたが、そのとき加茂村(里・高田・大野・観音寺・法華寺野・みかのぼろ瓶原村(西・例幣・奥細・井平尾・とうのお当尾村(岩船・東小・大門・西小・尻枝・南下手・北下)の三村が出来て、それまでの村を大字に改めたのである。そして各村には、役場手の一・二村統合。(加茂村役場は大字里、瓶原村役場は大字辻。)その後一九二八年(昭和三)加茂村は町制を実施し、加茂町と改称し、三町村それぞれ特色ある発展をつづけてきたのであるが、一九五一年町村合併によって、現在の範囲の加茂町として新しい発足をした。そして、三町村役場は統合されて、旧加茂町役場庁舎(現在地移転は一九五〇年)に置かれたのである。

## 第六章 和 東 町

### 第一節 概 観

和東町は、和東川の貫流する相楽郡東北部に位置し、北から東にかけて綴喜郡宇治田原町、滋賀県信楽町、南山城村に、南から西にかけて笠置町・加茂町・山城町・綴喜郡井手町に境している。東西一五軒、南北一〇軒、総面積は六四・五平方軒、人口は一九五五年(昭和三〇)の国勢調査によると、七、六一四人で、人口密度は一平方軒について一八人である。昔は和東郷とよばれ、一八八九年(明治二二)からは、湯船・東和東・中和東・西和東の四ヶ村に分かれていたが、一九五四年(昭和二九)二月一五日、三村が合併して和東町となり、さらに一九五六年(昭和三一)九月三〇日湯船村を編入して、現在の和東町になった。

和東川の狭い氾濫原と、和東川に注ぐ谷川のつくった谷口扇状地の外に、ほとんど耕地のないこの地は、山の傾斜地を開墾して茶樹を栽培し、古くから煎茶せんちやの和東としての名が知られ、宇治茶として市販されている茶の大半は、和東で生産されたものであった。近年、宇治茶と対抗して、「和東茶」という独自の名で市場に出そうとする気運が高くなり、茶生産者がこれをめざして茶樹改良、製造法の研究に非常な努力をほらっている。

位置

面積

人口

煎茶